

令和 5 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 看護学部

申請組織長 役職名 看護学部長 氏名 杉浦 美佐子

統括責任者 役職名 准教授 氏名 川島 一晃

課題名 看護学部生の「つながる椋山」の創出と学部の魅力発信プロジェクト

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	川島 一晃	看護学部 准教授	プロジェクト統括
	統括補佐 チーフ メンバー	福田 誠司	看護学部 教授	プロジェクト統括補佐
		井野 恭子	看護学部 准教授	プロジェクト推進・企画主幹
		又吉 忍	看護学部 准教授	プロジェクト推進・企画補佐
		瀧田 咲枝	看護学部 助教	同上
		濱島 麻衣	看護学部 助手	同上
		青木 ゆかり	看護学部 助手	同上
		川上 将	看護学部 助手	同上
		中原 弘喜	看護学部 助手	同上
		野中 さくら	看護学部 助手	同上

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

看護学部では、2023 年度前期に学部広報活動をサポートする学生の自主的な組織を設置（椋サポ）した。学生デザインのクリアファイルを制作し、オープンキャンパス等では看護学生としての生活の様子や椋山看護学部の魅力を発信する掲示物の制作などの実践がなされた。看護学部では、カリキュラムが密であり、学生は学修に忙しくなりがちであるという特徴も手伝い、自主的な学生らしい発信や実践までつながっていない現状と、同学年の横のつながりは、グループでの演習や実習等を通じ、深く展開する一方、学年を超えたつながりについては、十分とは言えない課題意識が存在した。そこで、本実践では、学生の自主的な活動意識の醸成と学年を超えたナナメの関係性の展開、そして看護学部の魅力や看護学生としての学生生活を発信するという活動を通じ、学部の中だけではなく、学部外にも「つながり」を展開することを目的として活動を計画した。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

本プロジェクトでは、既存の椋サポを拡大する形で、「他学年」で構成される広報活動サポート学生グループを形成し、趣旨に賛同した学生の自主的で個性的な発想を土台として、看護学部の魅力、看護学生としての生活の様子、広報活動の効果促進のための工夫について、チームを形成して学生主体の検討する形式で活動した。また「つながる椋山」として、学部内を超えた地域との「つながり」の創出についても意識して活動を考えることで、学生の能動性や主体性を刺激する機会となることを期待した。

本プロジェクトは、学生相互の交流の観点から、ピアサポートの要素を包含し、活動を通じた学生間での成長が期待される点が特徴である。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

既存の「学部広報コミュニティ：梶サポ」を拡大し、1年から4年生までの有志学生を複数のプロジェクトチームに分け、学生の主体的な取り組みをプロジェクト担当教員がサポートする形で、「ピアサポート的PBL活動」に取り組んだ。

- ① 1年から4年生の他学年の学生が混同する複数の活動チームに別れ、それぞれが関心を寄せるテーマのプロジェクトの活動に参画した。本実践では、梶サポの活動に新規10名の学生が参加し、「パンフレット内容検討チーム」「グッズ開発検討チーム」の2つのチーム体制で、学生の自由になる時間を活用して、それぞれ内容を検討した。月に1度を目安に進捗や課題等をミーティングにおいて共有した。
- ② 「つながる梶山」イベント活動の内容や学生生活についての「魅力」や「実際」について、学生自らが取材し、情報発信媒体の制作を検討した。本実践では、看護学生の生活のポイントや看護学部の教員へのインタビュー等のリーフレットにおけるコラム内容について検討がなされた。しかし、活動参加学生の学修との兼ね合いから活動時間が十分に確保できず、リーフレットの完成までは至らなかった。しかし、学生たち自らがコンテンツの内容を精選し、役割を分担しての取り組みは、それぞれの成長に寄与する機会となった。
- ③ 「つながる梶山」企画推進の際に活用可能な「学生オリジナル看護学部グッズ」の制作に取り組んだ。本実践では、新たに「梶サポ幟」「梶サポ活動ベスト」(図1、2)について検討し制作した。また前期までの取り組みで制作された「オリジナルクリアファイル(図3)」についても増刷し、2024年度の広報行事等で活用する。



図1 梶サポ幟



図2 梶サポ活動ベスト



図3 オリジナルクリアファイル

①看護学部の魅力開拓	②学生活動	③ピアサポート	④魅力発信
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

本プロジェクトでは、梶サポとしての学生活動の際に有用なアイテム(幟、ベスト)が制作されたこと、また2024年度における広報活動につながる看護学部の魅力発信に関する学生間の検討が展開した点が一つの成果であると考えられる。

しかし、演習、臨地実習等のカリキュラムから活動に関与しにくい時期や学生の学修を圧迫しない活動と学業の両立のバランスが今後の課題である。本実践で今後の継続課題となったリーフレットは、次年度以降の実践において、成果物となるよう今後も学生と取り組んでいきたい。